

『#NHK スペシャル file.8 日本赤軍 vs 日本警察』（2025 年）を視聴した。

本作は、日本中に大きな衝撃を与えた「未解決事件」の真相を徹底検証するシリーズの第 8 弾ということだ。

1970 年代に革命を掲げ、ハイジャックや大使館占拠などの事件に世界各地で関わった日本赤軍。仲間の釈放や身代金を要求した事件の深層に新資料と証言で迫る。日本赤軍が米国人等の人質をとって、日本赤軍の収監者の解放を訴えたことに対して、日本政府の超法規的判断で、人質交渉に応じて人命を尊重したことに対して米国政府は自国民が解放されたにも関わらず強い不快を示している。今回、番組では警察の元幹部や日本赤軍の元最高幹部・重信房子など 100 人以上の関係者を取材した。事件が社会に突きつけた“究極の問い”とは。半世紀のときを経て、数々の事件の内幕がいま明かされる。

1977 年のダッカ・ハイジャック事件。日本赤軍は乗客・乗員 151 人を人質にとり、多額の身代金と日本で収監中の仲間などの釈放を要求。追い詰められた日本政府はこれをのんだ。その後、警察は、極秘裏に日本赤軍の追跡チームを結成していた。今回、日本の警察と日本赤軍の長きにわたる闘いの舞台裏が明らかになった。激動の世界情勢の中で揺れ動いた捜査の内幕を語る。

日本赤軍の主要事件一覧

- ・テルアビブ空港乱射事件（1972 年 5 月 30 日）

イスラエルのロッド国際空港で銃と手榴弾を用いた無差別攻撃。死者 24 人、負傷者多数。国際的に強い非難を浴びた。

- ・ドバイ日航機ハイジャック事件（1973 年 7 月 20 日）

日本航空ボーイング 747 がハイジャックされ、犯人グループの一部が死亡。日本赤軍はパレスチナ解放人民戦線（PFLP）と協力していた。

- ・ハーグ事件（1974 年 9 月 13 日）

オランダ・ハーグのフランス大使館を占拠し、大使館員らを入質に。日本国内で服役中の仲間の釈放を要求。

- ・クアラルンプール事件（1975 年 8 月 4 日）

マレーシアの米国・スウェーデン大使館を占拠。人質と引き換えに日本国内で拘束されていた赤軍派関係者を釈放させた。

- ・ダッカ日航機ハイジャック事件（1977 年 9 月 28 日）

バングラデシュで日航機をハイジャック。日本政府は人質救出のため、服役中の赤軍派メンバーを釈放し、身代金を支払った（番組で取り上げられた）。

- ・その後の事件（1980年代～90年代）

ジャカルタ事件（1986）、ローマ事件（1987）、ナポリ事件（1988）など、欧州や東南アジアでのテロ活動を継続。

特徴と影響

- ・国際性：日本国内よりも中東や欧州で活動。PFLP など外国組織と連携。
- ・目的：世界革命・反帝国主義を掲げ、日本国内の仲間釈放を繰り返し要求。
- ・影響：日本政府は人質救出のため譲歩を余儀なくされ、国際的批判を浴びた。
- ・結末：1990年代以降、拠点のレバノンでメンバーが一斉検挙され、2001年に事実上解散。

日本赤軍の事件は、「テロと国家対応」、「人質交渉の倫理」を考える上で非常に重要な題材である。人民のために（革命）起こした事件で、人民を殺戮することが許されるのか、という問いである。20年の懲役を終えてインタビューに臨んだ重信房子は「革命のために、人民に犠牲を強いたことに対して深く反省」し、新しい方法論を模索していると答えていた（そして活動を始めている）。一方、米国政府の基本姿勢は、人質（自国民であっても）の生命が何人犠牲になろうとテロリストの交渉には応じない、である。

評価：★★★★☆